

未来の古河市を築く飛躍の年

～市民と共に未来に誇れるまちづくり～

今年度は「第2次古河市総合計画」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定から2年目となり、それらの施策展開を具体化させていく重要な年度となっています。

市長と新たに就任した副市長、教育長に市政運営への取り組みや今後の思いを伺いました。

【問】秘書広報課(総和庁舎) ☎92-3111

人口減少時代に立ち向かう

市長：古河市の人口は約40年後には約8万人*まで減少し、昭和30年代の人口規模に戻ってしまうと予想されています。人口減少社会への対応は、古河市にとっても極めて重要な課題です。

今までは、市外への流出人口が多く人口が減っていましたが、昨年度は市内への流入人口が大きく上回り、約290人も転入超過になりました。これは非常に大きなことです。

この要因の一つには、日野自動車株式会社古河工場の進出があると思います。昼間の働く場所を創出することができれば、古河市で働く人が増え、新たな人の流れができ、社会的流入人口が増えていく。さらに、家族と一緒に古河市に定住することにつながれば、古河市の人口が大きく減るといった予想は覆せると期待をしています。

これからは、さらなる人口増に結び付けるためにも、結婚・出産・子育ての希望をかなえるための支援や医療環境の充実、「若者・子育て世帯定住促進奨励金」などの制度的なサポートを含め、誰もが住みやすく、住み続けたいと思えるまちづくりを目指していきたいですね。

※国勢調査(総務省)および「日本の市町村別将来人口推計人口」国立社会保障・人口問題研究所より

世界に通じる教育環境を

市長：市内には、海外に支店を持つグローバルな企業がたくさんあり、顧客と英語で話す機会もあるかと思っています。コミュニケーションをとり、情報を世界に発信していく際には英語は非常に重要なツールなので、英語教育の強化に対する期待はとても大きいですね。

教育長：教育課程特例校として市立小学校の全学年で英語活動を実施しています。最近では、幼稚園などでも英語活動を始めており、小学1年生から続けて学べる「学習の連続性」が非常に大切です。英語を頭の中に定着させるためにも、連続して英語に触れる環境作りが必要になっています。

子どもたちは恥ずかしがらずコミュニケーションをとることができます。聴く力もすごく発達しているので、ネイティブの英語に触れてしっかりとした発音を覚え、外国人と積極的にコミュニケーションを取れるようになってもらいたい。

そのために、先生たちと一緒に教育プランをしっかりと考え、ALT(外国語指導助手)の増員を行い、生徒も先生もみんなが楽しんで学べる教育環境を整備していきたいですね。